

やまぐち自然派宣言

共生の思想を深める③ 庫本 正

会長あいさつ 白井啓二

表彰受賞者活動紹介

山口県環境保全活動功労者・団体

菊ヶ浜を日本一美しくする会

林 節司

白井啓二

山口県環境学習功労者

嶋田紀和



共生



会員だより

美祢市自然保護協会

樫野川流域地域通貨・連携促進検討協議会事務局

瀬川高志

山口県の自然公園について 山口県自然保護課

総会及びリレーミーティング in 山口

会長表彰



やまぐち自然共生ネットワーク

平成 28 年 1 月 31 日

共生の思想を深める ③

自然共生社会の構築

庫本 正

「共生の思想」はどんどん拡大を続けています。国は「自然共生社会」の構築に懸命です。また大学では、「人間共生論」などの講義を立ち上げています。ここでは「人と自然との共生」のみならず、視野をさらに拡大し、人間社会の中における「共生」問題も取り込んでいます。

今回は、「自然共生社会」の定義を取り上げましょう。

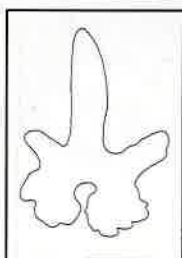
『自然共生社会』とは、人間社会を含む生物社会と、それらを支える生物および非生物からなる外的環境（自然環境）との間の機能や構造、その時間的变化を「生態系」という一つのシステムとしてとらえ、その健全化により人間社会を含む生物社

会とそれを支える自然環境の持続可能性が維持されるような社会の姿であるといえる。』

小宮山宏・武内和彦・住明正・花木啓祐・三村信男（編）『サステイナビリテイ学（4）生態系と自然共生社会』（二〇一〇）（東京大学出版会より）

葉っぱアート

野山に生えている植物の葉を集め、葉っぱの形から人や動物をイメージして絵にします。「お絵描きお姉さん」で活躍されておられる わたなべ えつこさんに見本を描いていただきました。妖精やピエロなどの傑作ができました。私たちは、やまぐちいきいきエコフェアで共生遊びを出店しました。小学生と同伴のお母さんは、すごい作品を作り大喜びでした。



ピエロさん



リーフちゃん

わたなべ えつこ 作

会長あいさつ

白井啓二

(錦川流域ネット交流会)

オオサンショウウオの一時保護

今年の正月は温暖化の影響かどうか分かりませんが、異常な暖冬でした。私の住む山間部は例年では氷点下になりますが、夜中でも10度近い日がありました。動植物にとっても大変なことだと思います。

錦川水系宇佐川の、国の特別天然記念物オオサンショウウオは、本州西端、山口県ではここにしか生息していません。宇佐川の上流には大きな砂防堰堤があり、築40年を経過して土砂が満杯となっています。この場所にオオサンショウウオが多く生息しています。その土砂の浚渫工事のため、2年前からオオサンショウウオの検討委員会を立ち上げ、工事中間中どうするか協議しました。その結果、移動することは好ましくないということで、一時保護施設を造り、そこで保護飼育することとなりました。市の許可を受け、調査を行い個体数を確認しました。工事開始前に一時保護のため捕獲し保護施設での飼育が開始しました。生まれて1年目の5cmのかわいい個

体から野生では最大級の95cmの個体まで、50頭以上を飼育しています。

地元の私も大きなオオサンショウウオは何度か見たことがあります。5cm位の小さい個体は初めて見ました。10cm、15cm、20cmと大きき順に50頭以上います。専門家先生が、大きな個体ばかりだと、いずれは絶滅する。小さな個体がいけないということは繁殖していないということだと言っていました。宇佐川は、小さな個体がたくさん見つかったので繁殖しているということです。

また、興味深い話ですが、生息地の地元の人に聞き取り調査を行いました。昔(40年から50年前)はオオサンショウウオはいなかったと言う人が多くいました。中には、食用のために広島県から持ってきて放した。と言う話もありました。自宅の池で飼っていた、それを食用にしていた。そんな話もありました。また、川で漁業をする人の話で、オオサンショウウオが魚を食べるので少なくなつたという話もありましたがそんなことはありません。私たちも宇佐川の各支流に6回にわたり調査しましたが、個体が発見できたのは1頭だけでした。生息地に最適な支流の上流部も探しましたがいませんでした。一番多く生息している場所は各支流の集まった場所付近です。上流部の最適な場所に移動するのがい

いという研究者もいますが、現在では、特別天然記念物ですので移動はできないそうです。錦川のオオサンショウウオも調査が始まったばかりです。

今後みなさんと協力して調査し保護していくと思います。一時保護施設も、地元の私たちは地域振興のため、観光目的に利用したかどうかと思いますが、規制があるらしく難しいそうです。しかし、事前に予約すれば見学はできます。せっかくの機会ですから、やまぐち自然共生ネットワークの会員の皆様には見学に来ていただきたいと思っています。



表彰受賞者活動紹介

山口県環境保全活動功労団体

菊ヶ浜を日本一美しくする会

会長 小茅 稔

このたびは、山口県環境保全活動功労者表彰をいただきありがとうございます。

昨年は大河ドラマでも舞台になったここ萩には、北長門海岸国定公園内にあって、国指定史跡の萩城跡から萩湾に沿って約1.6キロ続く海岸「菊ヶ浜」があります。

菊ヶ浜は、白砂青松、国指定天然記念物の「指月山」、沖合には大島や相島が見渡せ、日暮



れ時の美しさは「日本の夕景百選」に、選ばれた絶好のロケーションです。市民の散策コース、観光客の憩いの場として、夏には海水浴を楽しむ

ファミリー客などでも賑わいます。

この菊ヶ浜の環境美化を図り、名実ともに訪れる方に喜ばれる日本一の海岸にすることを目的に、「菊ヶ浜を日本一美しくする会」は、海岸線に住む人や事業所が集まって平成15年10月31日に設立されました。

自発的なボランティア活動を主体とし、浜に打ち上げられたり、放置されている空き缶、瓶、ペットボトル、海草等の清掃美化活動に定期的に取り組んでいます。

平成19年には、「県民協働型自然共生手づくり事業」（やまぐち自然共生ネットワークが県より委託され実施）により、美化の啓蒙活動や、当会の紹介を兼ねた菊ヶ浜のPR看板を設置いたしました。



平成20年に全国海岸協会が認定する「海岸功労者」、21年に萩市の「おもてなし大賞」、24年7月に海上保安庁長官より「海岸環境保全に貢献」として表彰をいただきました。

会員の高齢化や、大型機が欲しいなどの悩みもありますが、朝早くきれいな海の空気を吸いながら、汗を流して作業をすることは健康にもよく、海岸が美しくなれば気持ちがいいものです。

これからも受賞を励みに、地域と連携して活動が続けていきたいと思っています。

山口県環境保全活動功労者

林 節司

(岩国市)

この度は知事表彰という栄えある賞をいただき大変光栄に思っています。もちろん私個人の力によるものではありません。古市節分草保存会会員の皆様すべての功績であり、私が代表していただいたものと思っています。早いもので節分草発見から7年目に入りました。毎年の草刈りなどの保全活動により自生地は発見当時より10倍程度拡大し、ますます拡がりそうな様子です。これもひとえに、会員の可憐で健気な節分草を愛する心の賜物だと思っています。将来的には、この心の後



節分草



古市節分草保存会の保全活動

継者を育てることも必要です。昨年の公開日には初めて『ちびっこガイド』が活躍し、小さな芽が芽生えつつあります。さて、先日開催の保存会総会において、今年の公開日が2月11日(木)・12日(金)・13日(土)の3日間に決まりました。錦川清流線利用者に限定し見学することができそうです。最後に、この度の表彰が保存会の存在と活動が広く知っていただけるきっかけになればと願っています。また、会員一同さらに精進し、里山の健全な発展に尽くしたいと思っています。



昨年の節分草公開日の様子

節分草公開日のお知らせ

完全予約制

2月11日(木)、12日(金)、13日(土)

◆お問い合わせ先

TEL 0827 (72) 2002

錦川鉄道株式会社

〒740-0724

岩国市錦町広瀬 7 8 7 3 - 9

山口県環境保全活動功労者

白井啓二

(岩国市)

このたび、山口県知事より、環境保全功労者表彰をいただきました。身に余る光栄でございます。錦川を日本一きれいな川にするため、流域のみなさんと連携を取ながら活動を続けてきました。錦川流域ネット交流会で、平成二十四年六月に、環境大臣表彰を、翌年の平成二十五年二月には、地域づくり総務大臣表彰を受賞しています。錦川流域のみなさんが、錦川の環境保全や、地域づくりに尽力されたことがこの表彰に繋がったのだと思います。

私の錦川の環境保全のきっかけとなったのは、平成十一年五月に本屋で「結の心」という一冊の本と出会ってからです。一晩で読み終え、あくる日には、その本の著者である、宮崎県綾町の助役三期、町長を六期、町づくりに三十六年務められた、郷田實先生に電話をしました。どうしてもお会いしたかったのです、その週末には郷田先生の住む綾町に行きお話を聞きました。その話に感銘を受けて、帰ってすぐに活動が始まりました。それからしばらくして、郷田先生に錦町にお越しいた

だき、町民二百人の前で「町づくり」の講演をしていただきました。あくる日、お帰りになるときに「まちがいなく錦川は日本一きれいな川です。でも、ほっておいたらすぐに汚い川になります。あなたがた、若い人たちが、汗を流し、楽しみながら守っていかなくてはならない」そう言い残しお帰りになりました。その一カ月後に、八十一歳でしたが、お亡くなりになりました。あの言葉が遺言だったのかもしれません。当時、商工会青年部長を務めていたので、「錦川清流委員会」を立ち上げ、錦川の河川清掃が始まりました。その後、錦川の環境保全のグループが結集し「錦川流域ネット交流会」を立ち上げ、流域全体の環境保全が始まりました。

郷田實先生のおかげで、錦川流域の多くのみなさんのおかげで今回の表彰を受けることができました。その後、節分草の保護活動の会の立ち上げ、本州西端のオオサンショウウオの会の立ち上げなどに繋がっていききました。本当にありがとうございました。

また、全国河川交流会、自然塾全国大会などで、多くの友人が出来、その関係で、昨年5月には、「海彦山彦会議IN錦町」を開催し、基調講演に、東京オリンピックピックメイン会場となる新国立競技場の建築家である隈研吾先生にお話をさせていただきました。隈先生も錦川

を見られて「すごい川だなあ」とびっくりされていました。また、錦町の古い町並みを見てすごいなあ写真は何回も撮っていました。

私たちは「錦川の駅」構想、錦川の環境保全の拠点を考えています。その時には、隈先生が協力してくださるとおっしゃってくださいました。ありがたいことです。

「身はたとい 錦の川に 朽ちぬとも
留め置かまし 川守魂」



山口県環境学習功労者

自然観察指導員 嶋田紀和

(山陽小野田市)

子供と地域の自然

私は40年以上、地域の自然公園と対話して今日に至っています。そこでカメラを生き物などに向けて撮影していると、その自然の豊かさに驚かされます。県内外の山歩きの中でも特異な存在と認識するようになりました。かつて、国土の開発ブームの中で地元の自然公園の山を切り開いて桜の植樹、オートキャンプ場の建設など開発が進められました。更なる開発の手が忍び寄りましたが市民の声でストップがかかりました。

自然の豊かさを発信するために「竜王山山野草ウォッチング」を1997年から始めて20年になります。その間、地元の仲間達や小学生、市民などの支援を得て、山野草などの保全活動を行ってきました。その積み重ねの中で昨年、竜王山が市から「ふるさと文化遺産」として認定されました。

さて、私の狙いは子供達に竜王山を自然体験のフィールドとして提供するところにあります。時代の変化と共に子供達は自由に屋外で遊べなくなってきました。常に何かの規制



がかかり息苦しい中で生きていて、何か大切なものを奪われているのではないでしょう。アメリカのレイチェル・カーソンは「センス・オブ・ワンダー」の著書にこのように書いています。「知ることは感じることの半分も重要でない」と。子供達は自然の中で五感をフル回転させて育まれます。竜王山は花・チョウ・鳥・ビオトープでの生き物ともふれあえる場となってきましたが、これからも更なるブラッシュアップが求められています。

私はこれまでに10年以上地域の保育園、小学校、児童館などで自然について教え、フィールドでの自然体験をサポートしてきました。驚くべきことは今日の子供達が余りにも自然体験と疎遠になっっていることであります。だから私と行う自然体験は、子供達にとって新鮮な感動となり、大冒険とさえ思えます。

す。竜王山にもオートキャンプ場があり、家族連れで賑わっていますが、親はキャンプ場内で遊ばせて、自然の中に連れて行ったら勘違いしているようです。自然はキャンプ場の外にあるのです。

観察会などで市内の大人にも自然お宝を発信していますが、無垢な子供達と自然とのふれあいは、まさに砂に水をまくように感じられます。

私は素晴らしい自然が身近にあることと、子供達との接点を与えられていることに感謝しつつ、今後もこの活動を継続していく所存です。



会員だより

自然保護協会のあゆみとこれから

美祢市自然保護協会

会長 中村 久

美祢市自然保護協会は、旧秋芳町の時「秋芳町自然保護協会」として、昭和四十四年の七月に発足しました。（当時の会員数は三九五名、秋芳洞の入洞者数は年間一三九万人）

その頃、秋吉台上を通る秋吉台有料道路建設問題が持ちあがり、自然保護の観点から賛否の議論が巻き起こりました。それに併せて、保護を目的とする当協会の必要性が議論され発足することになりました。

当時、秋吉台のほぼ真ん中を南北に走る有料道路は、台央への侵入者による岩石や植物等の盗掘が容易になる問題が指摘されました。その結果、秋芳町は、道路完成後の保護保全の徹底を図るため、四十六年に秋吉台管理事務所を新設し、十七名の職員を配置しました（現在は博物館が一部を担っている）。

その後、四十八年には、秋吉台の保護のため、県文化財課や同自然保護課、秋芳町、美東町の四者で「秋吉台マスタープラン」を作成し、秋吉台に関わる重要案件を審議することが定められました。

当協会は、発足から四十六年間に渡って、自然の保護保全を目的に様々な活動を行ってきました。年間の主な活動は次の通りです。

- 一、総会、理事会、各部会、講演会の開催
- 二、秋吉台の清掃活動（年に二回）
- 三、会員の研修視察と役員の研修視察
- 四、自然保護啓発作品の募集（各小中学校）
- 五、自然環境パトロール（帰化植物や廃屋）
- 六、広報「秋吉台」の発行（年に二回）

当協会は、こうした活動を通して市民に向けた啓発活動を行っています。

最近では、活動の一環として美祢市が進めてきた、日本ジオパークの認定に向けて、協会の意識高揚を図るために、会員の研修視察を行いました。この三年間で、長崎県の島原市、熊本県の阿蘇市、大分県の姫島村に向いて、その地の特色を生かしたジオ活動に



会員研修～おおいた姫島ジオパーク～



晩秋の秋吉台散策と清掃活動

ついて学びました。

幸いにして美祢市は、昨年の九月四日に、日本ジオパーク委員会より『Nine 秋吉台ジオパーク』の認定を受けました。

これに伴い、

当協会の今後の活動には、ジオパークの精神も受け継いで、秋吉台を中心に美祢市全域のジオサイトで、自然の保護や教育普及活動が必要です。また、地域の安らぎの場として、自然や文化財の重要性の啓発に向けて、発信することが大切になります。

さて、当協会の会員は、現在約一〇〇〇名の大所帯ですが、秋芳町時代からが始まりなので、旧美祢市や旧美東町の会員が大変少なく今後はこの二地域に力を入れて募集を行います。現在、会員の募集は、メジャーな秋吉台と云うことで全国募集を基本にしています。

以上、当協会のあゆみとこれから（内輪話）について紹介を致しました。

会員だより

百年後の子どもたちに

樫野川流域地域通貨・連携促進検討協議会

事務局長 岡 秀夫

樫野川の支流、仁保川の最上流端の山間に、突如として持ち上がった産業廃棄物処分場立地の話に端を発した取り組みが、広く人々のご理解とご協力のお蔭を頂き、平成25年に日本ユネスコ協会の「未来遺産」に登録されました。

未来遺産登録証に、「百年後の子どもたちに、日本の豊かな自然・・・」と明記されていることから、登録前後の幾つかの取り組みの中から、子どもたち主役のシーンをご紹介します。

森を育てることについて勉強しました。

活動場所となった「四季の森」は、かつて産業廃棄物処分場の建設が計画されたところですが、多くの人たちが全国に呼び掛けて集めたお金で山口市が買い取って整備。これまでにたくさんさんのボランティアで守られて来たところです。



山口中
央森林組
合のご指
導で、間
伐の大切
さや、手
入れの出
来なかつ
たところ
の違いを
教わりま
した。

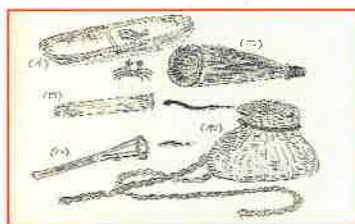
仁保川(樫野川の支流)の清流で
水辺の教室で楽しく勉強しました。

香川学園の

後藤先生から、
川魚の種類や
特徴など、珍
しいお話を、
たくさん聞く
ことが出来ま
した。



宇津木の里では、森や川の恵みと人々の暮らしについて、紙芝居で勉強しました。
山口市にある宇津木の里は、「樫野川活性化交流会」の活動拠点として親しまれているエリアです。



川魚を取るための道具



やまと、みずと、くらし

未来遺産登録証は、更に「・・・自然や文化を伝えようとする優れた取り組みが高く評価され、期待されていることを示す」とあります。これに応えるべく、更なる努力が求められるところでもあります。

ミツバチと環境保全

瀬川高志

(美祢市)

環境指標生物である『ミツバチ』

この世からミツバチがいなくなったら…そんな想像をしたことがありますか？

ミツバチは、人間よりも遥か古代から生息して、森に多いドングリのできる落葉広葉樹（被子植物）や、花をつけ種子を作る植物（顕花植物）などと共に生きてきたとも言われています。花が咲き、蜜が出る植物は、受粉しなければ実が出来ません。



実が出来ないと種が出来ないため、植物は子孫を残すことが出来ないことになります。そうなる、森がなくなるといふことになり、森がなくなると言うことはどういうことか？



鳥や熊や鹿、リス、イノシシをはじめ多くの動物が棲めなくなり、山そのものの植性が偏り、山崩れが常時化したり、荒廃すると考えられます。そして、川も大きく変わります。

本来の川は、山に降った雨は、木々や土壌のミネラルや鉱物などの成分を含み、土石、枯れ木、落葉、虫などとともに川に流れます。川は、山からの豊かさを増しながら川を束ね下流へと向かいます。そして、豊かな川は無数の生物を養います。

人間にも、飲料水をはじめ、農業用水、川魚など多くの恩恵を与えながら海へ下ります。このように落葉広葉樹の山から流れた栄養豊かな水は、多くの生命体を育む環境となつて

いるのです。

最後に、海に流れ込む栄養豊かな川は、プランクトンの餌や、海藻の栄養分などを運び、豊かな海を創る役割を果たしています。

「ハチ」↓「受粉」↓「結実」↓「種」↓「植物の増殖」・・・という相互循環は、山から川、海へと影響しているのです。

私たちが毎日食べている野菜や果物などの農作物の多くは、ミツバチの受粉のおかげで実ります。

「世界の食料の九割をまかなう百種類の作物のうち、七十種以上はミツバチが受粉を媒介している」という報告も（2011年・国連環境計画報告書）。



私たちが食べている食糧の約三分の一が、ハチなどの生物の受粉によってつくられていると言われています。この世からミツバチがいなくなったら…野菜や果物は命をつなぐことができ

ず、私たちの食卓から多くの野菜や果物が消えてしまいます。

昔の日本の山野には、ミツバチが巣に出来るほどの大きな木の洞がたくさんありました。明治以前は、農薬も無く野山は自然の状態であつたと思われます。

明治以降になると、日本の近代化が急速に進み売れる大きな樹木は伐採されて、管理された植林が山を被うようになりました。また、畑や果樹園、田んぼでは、農薬が使用されるようにもなりました。



「ミツバチ」たちの激減は、このような環

境破壊的行為を進めているのですから当然の現象といえます。山野の自然を守っていた「ミツバチ」の力に気づき始めてい



る人は、まだまだ少数です。

「ミツバチ」を守り増やすことは、環境破壊的行為を慎み、自然環境を取り戻すことになります。

イギリスには「ミツバチの歴史は人類の歴史」ということわざがあります。ミツバチと人類は古くから深いかわりを持ち続けてきました。

自然環境の大切さ、集団生活の大切さ、ミツバチから学ぶことはたくさんあります。

私は、山口市小郡桂谷にある「ヒュッテ桂谷 ランプの宿」に蜂箱を置き、将来を担う子供たちや訪問された人たちに、実際にミツバチに触れてもらいミツバチの生態や自然環境についての話をしています。

ハチも人類も自然の一部です。新米養蜂家ですが、私たちが自然の中で生かされていることを多くの人に伝えていきたいと考えています。



山口県の自然公園について

山口県自然保護課

自然公園とは、優れた景観や植物・野鳥などの自然環境を保護し、人々が日常生活を離れて大自然のもとでレクリエーションを楽しむよう、自然公園法又は山口県立自然公園条例によって指定された地域のことです。

山口県は日本海と瀬戸内海に囲まれ、中央部を中国山地が走っており、下表のとおり豊かな自然に恵まれた8つの自然公園を有しています。総面積は四万二千六百六十七ヘクタールで、県土の7パーセントを占めます。

周防大島町沖で確認されたニホンアワサンゴ群生地及び周辺海域について、平成25年2月には、環境省により自然公園法に基づく「海域公園地区」に指定されました。

自然公園内の巡視、危険箇所・違法行為の監視、利用者に対する適切な利用方法・自然保護についての指導等について、自然公園管理員や自然公園指導員が配置されています。

また、自然公園内には4つのビジターセンターがあり、公園を訪れる方に、地形や動植物など、自然についての利用案内や情報提供等を行っています。

自然公園の現況

種類	名称	指定年月日	面積 (ha)	関係市町
国立公園	せとないかい 瀬戸内海	S9. 3. 16	5,910	下関市、防府市、下松市、岩国市、光市、柳井市、周南市、周防大島町、上関町、田布施町、平生町
国定公園	あきよしだい 秋吉台	S30. 11. 1	4,502	美祢市
	きたながとかいがん 北長門海岸	S30. 11. 1	12,384	下関市、萩市、長門市、阿武町
	にしちゅうごくさんち 西中国山地	S44. 1. 10	3,953	岩国市
県立自然公園	らかんざん 羅漢山	S37. 3. 1	3,879	岩国市
	いわきざん 石城山	S37. 3. 1	2,716	光市、周南市、田布施町
	ちようもんきよう 長門峡	S37. 3. 1	5,656	山口市、萩市
	とよた 豊田	S37. 3. 1	3,667	下関市
合 計			42,667	



虹ヶ浜・室積海岸（光市）

瀬戸内海国立公園

比類ない内海多島海景観に加えて、古くから営まれている人間生活がもたらした自然と人文とが調和した特色ある景観を有することから、最初の国立公園として昭和9年に指定されました。瀬戸内海のほぼ全域で、関係する県も10県に及ぶわが国屈指の海の国立公園です。

ビジターセンターは、自然公園における自然とのふれあい活動を推進する施設で、自然や地理、動植物などを解説し、自然についての情報を、写真や、模型などの展示品で提供しています。山口県には、次の4つのビジターセンターがあります。



角島ビジターセンター
(つのしま自然館)

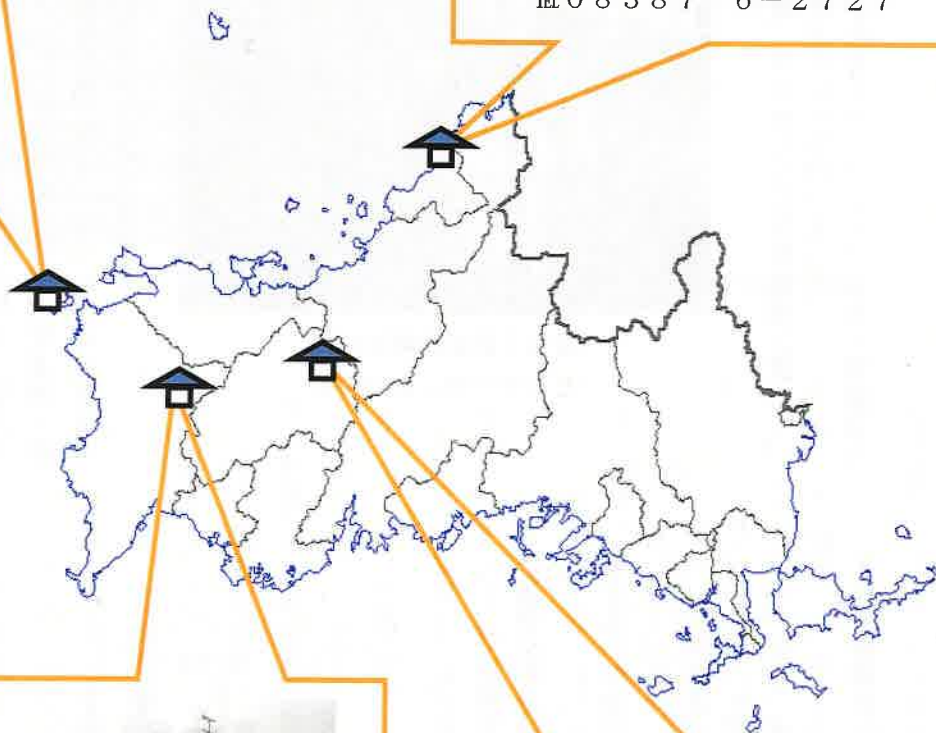
下関市豊北町大字角島 8 9 3 - 1



須佐湾ビジターセンター

萩市大字須佐 7 8 7

TEL 0 8 3 8 7 - 6 - 2 7 2 7



豊田湖ビジターセンター

下関市豊田町大字地吉 3 4 8

TEL 0 8 3 - 7 6 6 - 3 4 8 8



秋吉台ビジターセンター

(秋吉台エコ・ミュージアム)

美祢市美東町赤字檜木峠

TEL 0 8 3 9 6 - 2 - 2 6 2 2

総会&リレーミーティング

in山口

平成27年6月13日(土)に山口市のセミナーパークで平成27年度総会を行った後、引き続き、リレーミーティングを翌14日午前中までの日程で開催しました。

はじめに、総会(参加者30名)において、会長表彰を行い、佐伯清美氏(ヒュッテ桂谷ランプの宿管理人)に、白井会長より表彰状が授与されました。



総会の記念写真

H27.6.13 山口市セミナーパーク

次に議事に移り、全ての議案が承認されました。続いて、NPO自然と釣りのネットワーク理事の藤本正明氏を講師にお迎えし、「ニホンアワサングの調査・保全活動を通して学んだこと」と題した講演を行いました。昼食後、リレーミーティングに移り、ヒュッテ桂谷ランプの宿、榎野川流域地域通貨・連携促進検討協議会事務局、山口県樹木医会からの活動報告がありました。



きらら浜自然観察公園
ビジターセンターにて

その後、県立きらら浜自然観察公園にてバードウォッチングを行いました。夕刻からセミナーパークで夕食・懇談会を

行い、自己紹介や手品の披露などで会場は盛り上がり、日頃交流が少ない会員との交流を楽しみました。



陶ヶ岳山頂にて

翌日は、山口市徳地森の案内人の中村義博さん(山口県樹木医会)の解説を伺いながら、陶ヶ岳登山を行い、全ての日程を無事終えました。

◆今回の開催にご尽力いただきました皆さまに厚くお礼申し上げます。次回のリレーミーティング開催地はまだ決まっておられませんので、御協力いただける団体がいらつしやいましたら、ぜひ、事務局まで御連絡をお願いします。

多くの皆様のご参加をお待ちしています。

記念植樹 H27. 6. 14

ヒュッテ桂谷ランプの宿にて（山口市）



左から畑山静枝さん（ランプの宿マネージャー）、佐伯清美さん（ランプの宿管理人）、白井啓二会長

贈 記念樹（モクレン）

佐伯 清美 様

あなたは、里山体験施設「ヒュッテ桂谷ランプの宿」を拠点として里山周辺の整備、登山道の修復、自然とのふれあい体験による次世代交流等長年にわたる地道な努力と情熱で里山再生活動に精励されました。

よって、ここに記念樹を贈り感謝の意を表するとともにその功績を讃えます。

平成27年6月吉日

やまぐち自然共生ネットワーク会長 白井 啓二

長年にわたり、里山周辺の整備、登山道の修復、自然とのふれあい体験による次世代交流等、地道な努力と情熱で里山再生活動に努められた功績は顕著である。

佐伯清美さんの功績

平成27年度総会（6月13日（土））において、佐伯清美さん（ヒュッテ桂谷ランプの宿管理人）がやまぐち自然共生ネットワーク会長表彰を受賞され、翌14日（日）午後から副賞の記念樹「モクレン」の苗の植樹を行いました。

祝 会長表彰

表彰プレート

編集後記

県庁裏の案内板に従って歩いて行くと、五十鈴川ダム湖上流の「柳の水」にたどり着きます。この水は山口三名水の一つです。

大内氏の時代から六百年以上も続く湧き水で、お茶席に使う水として当時を代表する名水だったそうです。人家や棚田がなくなったことで長い間放置されていたところ、「この歴史ある水を末永く守って後世に残そう」と7人の市民ボランティアの方が環境整備に取り組まれ、昔ながらの名所が甦りました。

街の喧噪のすぐ近くに、こんなにゆったりした時間が流れ、水を守ってくださる方々がいらつしやることに感謝しながら、清水をいただいています。

このたび執筆いただきました皆様には心よりお礼を申し上げます。ご意見・ご投稿をお待ちしています。

編集担当 田中



放牧されているヤギの「花太郎」



〈表紙の写真説明〉

- 左上：オミナエシで吸蜜するジカバチの一種
- 右上：ムラサキセンブリの花
- 左下：オオバショウマの花穂
- 右下：ヤツデの花にやってきたキイロスズメバチ